

令和元年 第1回 学校運営協議会
日時：令和元年度6月4日（火） 15：30～16：40
出席者：青木邦弘、奥山由佳里、市川慎二、下城一、佐藤淑乃、萬谷恵三子（委員） 河原克宣、足立利恵、大内良臣
校長：皆様、こんにちは。本日は大変お忙しい中、本校の学校運営協議会にご出席いただきありがとうございます。厚木北高校校長からこの4月の人事異動で旭高校校長を拝命しました河原克宣と申します。前任校も運動部が盛んで、様々な形でスポーツに関わってきた経歴をこの学校で生かすことを期待されていると思い、深い感謝と責任の重さを感じました。生徒の明るさと気持のいい挨拶、校内のゴミの少なさ、に加えて、整然と行われている授業、放課後の活気あふれる部活動が本校の印象です。そんな中、県大会3位の女子バスケットボール部と陸上競技部は茨城県で行われる関東大会に出場します。また生徒自らの発想で、挨拶や校内美化を含めた「おもてなし」に関する取り組みも徐々ではありますが始まっています。一方で、この会でもご指摘いただいた遅刻の多さと家庭学習の少なさ、そしてアウトプットする力の育成を成果として求めて行きたいと考えています。教職員に対しては、これまでの旭高の良さを大事にしながらか、「厳しくも温かい生徒指導・支援」をするよう、一人ひとりが明るく、元気に、笑顔で業務に取り組んでほしいと話しています。
委員の皆様による活発な協議をお願いします。
委員紹介（それぞれ自己紹介）
委員：本日の流れの中で、コミュニティースクールについて確認しておきたい。コミュニティースクールは実質、どのような意味を持つか。高齢化社会との関わりを考えて高校生がお手伝いできることは何か。神奈川らしさを考える中で、災害の多さなども考えて地域協議会が学校運営協議会になったという理解でよろしいですか（承認）。
司会：運営協議会の会長、副会長の立候補はありますか（立候補なし）。 運営協議会の会長、副会長の推薦はありますか（推薦なし）。
校長：旧会長の後、4年間の成果を見て、委員2人を会長、副会長として推薦します（承認）。
会長：周囲の状況が大きく変わっていく中で、地域との交流などのおもてなしなどを通して、生徒達が変わっていくことをめざしたいと考えます。校長先生、学校目標をご説明下さい。
校長：冊子17ページの目標設定にあるとおりです。目標についてご指摘下さい。
会長：冊子11ページにありますランドデザインを、生徒達がめざす。これをふまえ、平成30年度の実績、それから31年度の目標の承認というのが本日の会の流れになります。
事務局：家庭学習については課題が残りますが、生徒は自覚しています。アウトプットは中学校でも知られ、学校説明会で先輩達がいろいろやってくれたという中学校からの意見もあります。
会長：運営協議会を活発化させたい。今の高校生の家庭学習についてはいかがですか。
委員：先生から、大学に行きたかったら、環境を作りなさいと言われ、やっています。それでなければ家庭学習はやっていないと思います。塾に行くと一括で100万程度もかかります。学校では先生が、朝、勉強会をしてくれています。それと、朝8：40頃、自転車の駆け込みで危険な

状況があります。
会長：そういった危険については、子供達に考え、改善させたいですね。
委員：中学校では家庭学習はしていました。
会長：高校でやらなくなる。
委員：中学校での宿題は内申書に関わります。高校では推薦でない限り、気にしないです。
会長：高校ですべき勉強は何か、子供達に考えさせたい。そのための運営協議会であると考えます。
31年度はポートフォリオはどうなっていますか。
事務局：今年度は質の高いものを、と考えています。
校長：取り組みは続けていきたい、と考えています。
委員：AGE28とありますが、今、企業は即戦力を求め、新卒は採らないというニュースがある中で、28歳は想像できません。大学の中で何をやるかが精一杯ではないでしょうか。
会長：大学の絞り込みはいかがですか。
委員：今塾へ行っているが、就職ないよと言われると専門の方がいいかなどと考えたり、6大学・MARCH・日東駒専に入れないと無理か、などとも考えます。
事務局：ビジョンを持った生活を送ろうということ。大学へ入っただけではなく、先の見通しを持って、28歳になった時、こうなっている、そのためのビジョンを持つということ。
委員：いくつでどういう役職といった、具体的な年齢とついている地位についてはどう考えますか。
事務局：たとえば、部下ができた時、実は自分はこういうビジョンで、と話ができるとすばらしいと考えます。
委員：それは夢です。
校長：高校生は十年先を見つめて、自分の人生の組み立てを自分ですることが必要と考えます。
委員：先輩から話して頂き、自分の高校時代や自分の抱いた人生のビジョンといったことを聞く機会があればいいと思う。
委員：それは大賛成です。
会長：学校の方で仕掛けを作って頂き、その一つがAGE28だと考えます。推薦でいいという風潮で高校生が勉強しなくなる。親が投資をして、大学を出ても就職できないとなると、高校の間で子供達が考えられる仕掛け作りをお願いしたい。
会長：いろいろなご意見をいただきましたが、それでは学校目標についてのご承認をお願いします(承認)。学校運営についてはいかがでしょうか。
校長：学校運営は18ページを見て頂き、本日は時間がないので、ご意見をたまわり、次回お示しすることと致します。
会長：18ページについては、次回までに意見があれば、挙げて下さい。
事務局：閉会宣言

令和元年度 第1回 教育活動活性部会
日時：令和元年6月4日（火） 16：45～17：00
出席者：萬谷恵三子、下城一、佐藤淑乃、市川慎二、足立利恵、阿部司、丹羽智子、田中茂
副校長：第1回教育活動活性部会を始めさせていただきます。この部会は、学校の教育力を高めるとともに、地域との相互理解をより深めることで学校を活性化することを狙いとしています。まずは、本校職員の自己紹介から始めさせていただきます。
職員：進路支援グループです。
職員：教務グループです。
職員：管理運営グループです。
副校長：それでは2つのグループのことについて、職員から説明があります。
職員：各学年における進路に関する活動について説明します。
1年生は、職業観を身に付けることを目標にしています。その中で、スタディサポートを活用しています。そして、6月に10年後を見据えた職業別ガイダンスを予定しています。
2月以降に各企業の声を聞く機会を設ける予定です。
2年生は、オープンキャンパスやキャンパスツアーを通して、上級学校を体験する予定です。
3年生は、進路決定に向けての活動になります。
職員：教務グループでは、新カリキュラムに向けて、現行カリキュラムの問題点を、各教科から挙げるよう、各教科代表に依頼を行いました。私は情報科を担当しているので新カリキュラムの「プログラミング」については、教える側の学習の必要性を感じています。また、各種検定試験受験を促すために単位認定システムを校内的に整えていきます。
副校長：AGE28をとおして10年後生徒がどのような社会人になるか、私たちはどのような生徒を育てるのか。高大接続の改革を受けてeポートフォリオへの記録を行っています。
そして、魅力特色検討会議を立ち上げて、本校の魅力特色について検討を進めています。
委員：この会議に参加する前に、旭高校を知るためにHPを見ましたが、わかりにくい。
旭高校がどのような学校なのか探ることができない。学校目標にHPを見やすくすることが挙げられていた。変えていくのが必要だと思います。
高校では、どのような学習の分析をしていますか。アンケートを活用して生徒の色を吸い上げてはどうか。アンケートの分析が重要であると考えます。
委員：AGE28についてですが、卒業生の声を聞くことが生徒自分自身の将来の青写真を描くのに適しているのではないかと。年齢も近いし、卒業生ということで、今の生徒と共感でき安心感がもてます。そして、卒業生の話なので、説得力があります。ちょっと前の卒業生を呼ぶのはどうか。
職員：今年度来ている4人の教育実習生が、今週の木曜日に各クラスを回って、話をしてもらう予定になっています。
委員：生徒自らの青写真となるような現在働いている人の話がよい。一般企業に行った卒業生の話が聞けたらよいと思う。ホームページはやはり見にくいです。

委員：e-ポートフォリオについて、コンテストを開いてはどうか。先輩の合格や成功談を見せる。
オープンキャンパスに参加することで、一般受験を増やしてはどうか。自分の目標、関心に沿ったところへ夏休みの宿題消化のためとかいうのではなく行く。大学に入ればどこでもよいというのではなく、指定校推薦の大学を選ぶのも最初に学びたい学部を決めることから始める。この学部に行きたいからこの大学というように。オープンキャンパスに行くときからそうした意識を持って大学を選んでほしい。
委員：幼稚園に専門学校生 200 名が来て、現場の先生の話聞いた。
例えば、玩具の貸し借りをとおして幼児たちが考える力をつける。他者に共感する意識を育てるといような現場の具体的な話を学生は意欲的に聞いた。
副校長：9月には本校の文化祭があります。ご参加ください。次の学校運営協議会は11月に行われる予定です。本日はお忙しい中本校にお越しいただきまして有り難うございました。

令和元年度 第1回 地域連携部会

日時：令和元年度6月4日（水） 16：45～17：00

出席者：青木邦弘、奥山由佳里、大内良臣、多田明恵、安田智香、木本厚

教頭：地域連携部会の部会長を委任しましたのでご了承をお願いします。

昨年はボランティア活動を中心に考えてきました。新たに委員の協力でダンス部が発表会を行い、地域の子供たちと一緒に踊ることができました。今年も学校外での活動を通して地域との関係づくりを促進していきたいと考えています。

委員：旭高校とはボランティア活動を通してつながりがあります。ビリーブがその具体例です。ケアプラザを中心に今後も活動を広げたいと考えています。

委員：ロータリークラブも旭高校との連携があります。10年前は生徒に講話をし、その後は留学の世話もしてきました。

インターアクトという福祉クラブ（奉仕）の設置については、前校長も興味を持ち、旭の生徒が発表会に参加しました。そのクラブでは交通費や会議運営の支援も条件に合えば可能となります。生徒会が対応している学校もあります。その条件としては、年間での計画・実施、会計処理、そして担当の責任者も必要になります。地域に貢献できる良い機会になると思います。

委員：川井地区では『ちょこっとボランティア』を考えています。旭高校とも連携できればと考えています。野球部は荷物の運搬を考えてくれています。

教頭：さまざま機会を利用して地域に貢献できればと考えています。今後も情報を提供していただければと考えています。